

第3学年「社会」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ まちや身近な環境への関心が高い。
○ 体験を伴う活動に意欲的で、学習の内容理解に努めることができる。
- 課題** ▼ 方位や地図の見方など、適切に理解していない児童がいる。
▼ 身近な自然、人や地域との関わりにおいて、自分事として捉えられていない児童が多い。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 地域における社会的事象を自分の目でよく見て考える力
- ◇ 調査活動、具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる力
- ◇ 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する資質・能力を育成する力

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 地域見学を通して、土地の利用や地域の人々との関わりに親しみをもち、自信をもって地域社会と関わっていく。

言語活動の工夫

- 見学して気付いたことや分かったことを発表したり、話し合いの機会を設定したりして、考えを整理し表現できるようにする。

ICT活用の工夫

- 映像資料等の活用、ジャムボード等による考えの共有場面を設定する。

課題解決力育成の工夫

- 資料から読み取る視点を具体的に示して、明確にする。

達成目標

- 身近な地域や市区町村の地理的環境、産業、地域の様子の移り変わりなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握し、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や社会生活に生かそうとする態度、思考や理解を通して、地域社会の一員としての自覚を養う。